

第67回予知連絡会議事録

日時：平成6年10月31日(月) 13時10分～17時50分

場所：気象庁 第1会議室

出席者：会長：井田

委員：茂木，荒牧，岡田，浜口，野津，藤井(敏)，歌田，鍵山，平林，中川，石井，藤井(友)，曾屋，多田，大島，熊谷，宝来，手塚，鈴置，栗原

臨時委員：清水(九大・島原)，中田(九大・理)，石原(京大・桜島)，生野(雲仙岳測候所長)

オブザーバー：山岡(名大)，森(国土庁)，内藤(科技厅)，須藤(地調)，小白井・橋本・熊木(地理院)，渡辺(水路部)，小玉(消防庁)，山里・小宮(気象研)，小嶋(地磁気)，吉田・内池(気象庁)

庶務：濱田，西出，立山，斉藤，西脇，土井，久保，中村，小林，菅野，桜田

○議事に先立ち栗原委員から臨時委員の紹介があった。

1. 幹事会の報告

- 1) 火山噴火予知連絡会の運営要綱に加えて運営細則を設ける件については、意見なく了承された。
- 2) 第66回議事録は修正意見があれば事務局に連絡することで承認された。

2. 火山活動の報告と評価

雲仙岳，阿蘇山，屈斜路・阿寒カルデラ，雌阿寒岳，十勝岳，倶多楽，樽前山，有珠山，北海道駒ヶ岳，アトサヌプリ，八甲田山，栗駒山，吾妻山，安達太良山，磐梯山，那須岳，草津白根山，浅間山，新瀉焼山，御嶽山，富士山，箱根山，伊豆東部火山群，伊豆大島，新島，神津島，三宅島，硫黄島，霧島山，桜島，口永良部島，中之島，諏訪之瀬島，海底火山等について各委員・機関から観測データ等の報告があり，活動の評価等を行った。

1) 雲仙岳

- ・10月に入って，傾斜計が溶岩ドームの隆起を示す変化の時期に地震が増える傾向を示している。従来，傾斜計の変化は深い部分の変化を表していて，測距等は表面的な浅い部分の変化を示していると考えられていた。溶岩の垂直変動では地震にあまり結び付かず，水平変動に移行したとき地震が増えるのが今までの傾向で，10月になって始まった動きはこれらの傾向と異なっている。
- ・地溝内は沈下傾向にある。水準とGPSによる測量結果では季節変化も見られ，見掛け上山頂が隆起する変化が見える。
- ・溶岩噴出量が10万 m^3 /日を超えると沈降し，それ以下だと沈降は停滞する傾向が見られる。
- ・ドーム体積の変化は，2～9月で見ると6万 m^3 /日，ドームの現容積は1億 m^3 。
- ・地磁気の変化については，がけ崩れや物が動くことによる変化がほとんどである。
- ・COSPECの結果， SO_2 は40t/日で溶岩噴出量の変化に良く対応している。

・雲仙温泉の泉温は水量による変化があるが、特に異常は認められない。
これらの報告結果に基づき、統一見解をまとめた。

2) 阿蘇山

- ・9月12日に噴火した。土砂噴出に伴う微動で有感となった。
- ・地磁気観測の結果では、噴火前の状態に戻ったという解釈もできる。

3) 十勝岳

- ・9月に地震がやや増加したが、特に変化なし。
- ・大雨により土石流が発生し、新しいガリーが2本出来た。

4) 雌阿寒岳

10月4日の北海道東方沖地震後、やや地震が増加。

5) アトサヌプリ

6月より有感地震が多く、北海道東方沖地震の直前にも有感地震が続発。

6) 樽前山・有珠山・北海道駒ヶ岳

変化なし。

7) 八甲田山

機動観測により酸ヶ湯温泉、地獄沼周辺の変質地帯で、前回の機動観測では観測されなかった新たな噴気、地熱が観測された。

8) 栗駒山

宮城県北部で5月31日より地震（最大M 3.6）多発、現地観測に異常はなかった。

9) 吾妻山・安達太良山・磐梯山

地震活動は低いレベルで経過。

10) 箱根山

10月下旬に芦ノ湖の南西岸で地震続発。

11) 浅間山

低いレベルであるが地震活動・噴煙活動に回復傾向が見られる。

12) 伊豆大島

島の東部で地震が群発、他は変化少ない。

13) 御嶽山

南南東約10 km付近の地震が多発しているが、山体の活動はなし。

14) 那須岳・草津白根山・伊豆東部火山群・三宅島

活動レベル低調。

15) 桜島

爆発回数は少なめに推移。

16) 諏訪之瀬島

噴火活動を断続。

17) 海底火山等

海底調査の結果、沖縄トラフ内部に火山が複数見つかる。採取した岩石のSiO₂の量が海底噴火による噴出物と良く似ている。

18) 硫黄島

8月22日に小規模な水蒸気爆発，その他の異常が認められた。

19) その他

ニイラゴンゴの火山活動について報告（東北大）。

3. 協議事項

次回連絡会は2月6日（月）開催予定。

4. 連絡事項

1) 火山噴火予知連絡会20周年の原稿執筆の締切りについて。

2) 配布資料

- 日本火山学会・日本地震学会共催公開講座「火山と地震を学ぼう」
- 昭和新山生成50周年記念「'95国際火山ワークショップ」
- 平成5年度火山機動観測実施報告（気象庁本庁，福岡管区气象台）

5. 記者説明

18時00分から井田会長，栗原地震火山業務課長，濱田火山対策室長，清水臨時委員（九大・島原），中田臨時委員（九大・理）が記者会見を行い，雲仙岳の火山活動に関する統一見解の発表及び火山噴火予知連絡会の会議の概要を説明した。